令和４年７月

普　及　活　動　報　告

資料を用いて講習

あぜ道に立ち稲作管理を呼びかけ

亀岡市各地域の水稲研修会で良食味米生産を推進

（亀岡市：6/28～7/6）

JAが各地で開催している水稲研修会（あぜ道教室）に普及センター職員が出席し、良食味米生産のための中干し、間断かんがい、出穂期前後の湛水の水管理、カメムシ対策の畦草刈り、いもち病などの病害とジャンボタニシ対策などの講習をしました。

普及センターは今後も、おいしいお米づくりに向け支援していきます。

場　　所　亀岡市内２２箇所

南丹市では農談会として実施されている

令和４年７月

普　及　活　動　報　告

スクミリンゴガイ発生状況を調査

（亀岡市・南丹市：５・８日）

地域毎に卵塊や貝の密度を確認

冬期耕うんの効果を確認する行政担当者

南丹管内では、亀岡市と南丹市でスクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）の生息地域・被害が拡大しているため、現在の発生状況を巡回調査しました。

防除対策が実施されている地域も多く、今回は特に目立った被害はみられませんでした。

冬期耕うんしたほ場では、ジャンボタニシの発生、被害が少ないとの声が聞かれます。

普及センターは今後も、ジャンボタニシ被害軽減のため支援していきます。

場　　所　亀岡市及び南丹市の水田及び周辺水路等

出席者数　８名

令和３年度の亀岡市・南丹市の発生水田面積：944ha
（本年度は集計中）

令和４年７月

普　及　活　動　報　告

講師への質疑と意見交換

特産館の説明と館内見学

持続的な加工活動を目指して視察研修会を開催

（６日）

南丹地域農村女性・加工研究会では、３年ぶりに視察研修会を開催し、綾部市を訪れました。

研修会では、和木町農林業振興組合長から特産物加工等の取組やリーダーとして考える地域づくりについて、Ｉターン農家からは就農のきっかけや現在の経営に至るまでの経過、地域との関わりについて事例を学びました。あやべ特産館では、館長や中丹東普及センターから京都中丹いちおし商品の取組等、特産物の販売やPRについて学びました。

参加者からは「担い手育成には地域からのあと押しも必要」「会員間の情報交換の場が久しぶりに持てて元気が出た」との声が聞かれました。普及センターは、管内の加工活動が継続的経営となるよう支援を行います。

場　　所　綾部市和木町公民館
　　あやべ特産館
出席者数　１８名

加工研究会は、加工に取り組む農家女性（グループ及び個人）28名で構成

令和４年７月

普　及　活　動　報　告

京果の解説を聞く生産者一同

伏見とうがらしの栽培管理の説明

伏見甘長とうがらし出荷目合わせ会
～京丹波町３地域初の合同開催～

（京丹波町：２１日）

京丹波町３地域での初の合同出荷目合わせ会が開催され、京都青果から市場状況について、生産者から栽培の現状について報告がありました。普及センターからは、今後の栽培管理のポイントについて説明しました。

生産者からは、出荷物の品質にばらつきが出ないよう、しっかり指導してほしいとの声がありました。

普及センターはJAとともに定期的にほ場を巡回し、今後も引き続き支援していきます。

場　　所：JA京都丹波支店
出席者数：３４名

令和４年度生産者41戸、生産面積１ha

令和４年７月

普　及　活　動　報　告

ドローンによる農薬散布実演

昨年の調査結果等を報告

黒大豆防除の省力化と生産安定を目指して
～黒大豆ドローン防除実演会を開催～

（京丹波町：２６日）

黒大豆の安定生産と省力化を目指し、生産者を対象にドローンによる農薬散布の実演会を開催しました。

京丹波農業公社がドローン散布を実演した後、普及センターからドローン散布について昨年の調査結果等を報告するとともに、定期的な防除とそのための手段の一つとしてドローン利用の検討を呼びかけました。

参加者からは、料金について質問が出るなど関心が持たれました。普及センターは、今後も黒大豆の安定生産に向けて、栽培指導や情報発信に取り組んでいきます。

場　　所：黒大豆枝豆栽培ほ場
（京丹波町坂原）
出席者数：３１名

令和４年７月

普　及　活　動　報　告

栗の講義

現地視察

京都丹波就農サポート講座 第３回 ～地域特産「栗」の講義と視察研修を実施～

（２７日）

令和４年度京都丹波就農サポート講座の３回目として、森づくり振興課と連携し、丹波地域特産「栗」の講義と現地視察研修を実施しました。

地域特産物マイスターの山内善継氏から栗栽培について受講後、同氏の栗園を視察し、植付方法や接木、剪定等について説明を受けました。

受講生からは「丹波くりは聞いたことはあったが、詳しく知る機会がなかったのでとても勉強になった」「実践的な話が聞けてよかった。栗と併せて、他の果樹や作物との兼ね合いなど、必要な知識を教えていただき非常に役立った」等の感想がありました。突発的な強雨のため限られた時間となりましたが、現地視察により理解が深まりました。普及センターは今後も新たな担い手の基礎技術の習得や早期経営確立に向けて支援していきます。

場　　所：林業大学校及び栗栽培ほ場
出席者数：２５名

令和４年度受講生：20名（就労支援事業所：３名、亀岡市：３名、南丹市：５名、京丹波町：９名）、講座回数：全７回（11月８日までの予定）